

令和5年度

「運営に関する計画」 最終評価

大阪市立茨田北中学校
令和6年2月

現状と課題

本校では、「自主 協調 勤勉 努力」の校訓に基づき、「自ら物事を前向きに考え、他者を思いやり助け合うことのできる人を育てる」に加え、今年度「読解力を高め、自ら考え行動し、探求心を持ち協働できる生徒の育成を図る」ことを教育目標として掲げた。

特色としては、学習規律を保ち、自他を尊重する態度を身に付け、自立を目指した集団育成に力を入れて教育活動に取り組んでおり、その効果が徐々にあらわれている。

現状としては、生徒の学習態度は概ね良好であるが、家庭における学習習慣が十分定着しておらず、学習の定着度に二極化傾向が見られる。学校行事や部活動には意欲的に取り組むが、地域行事やボランティア活動への参加が少ない。教職員はベテラン教師と若手教員の年齢構成において二極化が見られ、組織的な授業改善を推進する校内体制の構築が、やや不十分である。保護者・地域は、学校運営や教育活動に協力的であるが、保護者説明会や授業参観等の参加状況がそれほど多くない。

課題としては、わかる授業や個に応じたきめ細やかな指導に努めるとともに、読解力の向上と探求心を持たせるために、体験的で問題解決的な学習の充実を図り、学習意欲を向上させることである。また、自己肯定感を高める道徳教育や人権教育の推進、夢や目標を持って励ませる進路指導の充実、生徒に寄り添いつつ集団を育成する生活指導の充実を偏ることなく組み合わせることにより、いじめの未然防止や不登校の早期発見につなげることである。さらに、一人一人を大切にする特別支援教育の充実と工夫、健康・体力・運動への関心を高める指導や食育の推進、小中一貫した教育の充実と地域に開かれた学校づくりの推進等に取り組むことである。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

○令和7年度の生徒アンケートにおける「学校の規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を90%以上にする。

【R4:97.5% R5:94.5%】

○平成4年度～令和7年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を100%にする。【R4:100% R5:100%】

○令和7年度末の生徒アンケートにおける「係や当番の仕事をすすんでしている」の項目について「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。

【R4:94.1% R5:90.7%】

○令和7年度末の保護者アンケートにおける「学校は積極的に保護者や地域に情報発信を行っている」と答える保護者の割合を70%以上にする。【R4:93.0% R5:94.5%】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和7年度の全国学力・学習状況調査における知識に関する問題の正答数が全国平均の7割に満たない生徒の割合を平成4年度より3%向上させる。

【R4:国語17.6%、数学32.2%、理科33.1% R5:調査中】

○令和7年度の中学校チャレンジテストにおける対府平均比を、令和4年度より向上させる。

【R4:3年1.04% R5:1.02%】

○令和7年度の全国学力・学習状況調査における「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)」の項目について「している(どちらかといえばしている)」と答える生徒の割合を令和4年度より向上させる。【R4:48.6% R5:54.2%】

- 令和7年度における授業アンケートで「授業がわかりやすい」と答える生徒の割合を全体の80%以上にする。【R4:78.9% R5:75.6%】
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における各学年の合計得点を、令和4年度より3ポイント向上させる。【R4:41.78pt R5:45.61%】
- 生徒アンケートにおける「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「食べていない（あまり食べていない）」と答えた生徒の割合を毎年、前年度より減少させ、令和7年度調査において5%以下にする。【R4:4.5% R5:7.6%】
- 令和7年度末の生徒アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気を付けている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を70%以上にする。【R4:93.4% R5:89.1%】
- 令和7年度末の生徒アンケートにおける「部活動に積極的に参加している」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。
【R4:79.0% R5:74.3%】

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末の校内調査にける「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を70%以上にする。【R5:3.0%】
- 令和7年度末の校内調査における「日々の学習活動の中でプロジェクターを使用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を90%以上にする。
- 令和7年度末の生徒アンケートにおける「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を70%以上にする。【R4:62.0% R5:57.9%】

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心の教育の推進】

全市共通目標

- 令和5年度末の校内調査において、「いじめは、どんな理由であってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を81%以上にする。
【R4:80.7% R5:85.1%】
- 令和5年度末の校内調査において、不登校在籍比率を前年度より減少させる。【R4:7.5% R5:13.8%】
- 令和5年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。
【R4:51.1% R5:調査中】

学校園の年度目標

- 令和5年度の生徒アンケートにおける「学校の規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を90%以上にする。
【R4:97.5% R5:94.5%】
- 令和5年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を100%にする。【R4:100% R5:100%】
- 令和5年度2学期末の生徒アンケートにおける「係や当番の仕事をすすんでしている」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。
【R4:94.1% R5:90.7%】

○令和5年度2学期末の保護者アンケートにおける「学校は積極的に保護者や地域に情報発信を行っている」と答える保護者の割合を70%以上にする。【R4:93.0% R5:94.5%】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標

○令和5年度2学期末の生徒アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を40%以上にする。【R4:22.1% R5:34.1%】

○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的の比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。

| 現3年生 | 1年時(R3) | 2年時(R4) | 3年時(R5) | 現2年生 | 1年時(R4) |
|------|---------|---------|---------|------|---------|
| 国語 | 1.02 | 1.03 | 1.05 | 国語 | 1.0 |
| 数学 | 1.03 | 1.08 | 1.04 | 数学 | 0.95 |

○大阪市英語力調査におけるCEFR A1 レベル総統以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を85%以上にする。【R4:66.9% R5:58.7%】

○年度末における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることが好きですか」に対して、最も肯定的な「すき」と回答する生徒の割合を50%以上にする。【R4:46.3% R5:53.8%】

学校園の年度目標

○令和5年度の全国学力・学習状況調査における正答率を府平均よりも向上させる。

【R4:国語 1.02 数学 1.07 R5:国語 1.00 数学 0.96】

○令和5年度の中学校チャレンジテストにおける対府平均比を、令和4年度より向上させる。

| 3年 | 国語 | 社会 | 数学 | 理科 | 英語 |
|----|------|------|------|------|------|
| R4 | 1.02 | 0.95 | 1.07 | 1.07 | 1.10 |
| R5 | 1.05 | 0.94 | 1.04 | 1.09 | 1.00 |

○令和5年度2学期末の生徒アンケートで「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について「している(どちらかといえばしている)」と答える生徒の割合を令和元年度より向上させる。

【R4:50.0% R5:51.9%】

○令和4年度2学期における授業アンケートで「授業がわかりやすい」の項目について、肯定的回答の生徒の割合を全体の70%以上にする。【R4:78.9% R5:75.6%】

○令和4年度2学期末の生徒アンケートで「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「食べていない(あまり食べていない)」と答えた生徒の割合を前年度より減少させる。

【R4:4.5% R5:7.6%】

○令和4年度末の生徒アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気を付けている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を70%以上にする。【R4:93.4% R5:89.1%】

○令和4年度末の生徒アンケートにおける「部活動に積極的に参加している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。

【R4:79.0% R5:74.3%】

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

- デジタル教材を活用した朝学習を週2回以上実施する。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を60%以上にする。【R4:43.9% R5:37.5%】

学校園の年度目標

- 令和4年度末の校内調査における「日々の学習活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を60%以上にする。【R5:3.0%】
- 令和5年度末の校内調査における「日々の学習活動の中でプロジェクターを使用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を70%以上にする。
- 令和5年度末の生徒アンケートにおける「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を60%以上にする。【R4:62.0% R5:57.9%】

3 本年度の自己評価結果の総括（最終評価）

四つの校訓を原点として、今年度の学校教育目標を一新し「読解力・探求心」を取り入れながら「元気の出る学校」「地域に誇れる学び舎」をスローガンに教育実践を図った。

学習規律を高め、自立を目指した集団作りを進めてきたが、二学期に入ってコロナなどの感染症拡大があり、学級休業のために文化発表会を延期せざるを得なくなった。

学力向上においては、主体的な学びに向かって教員が創意工夫の努力を重ね、全国テストなどで大阪市平均を維持している。しかし、定着度には二極化ができていたため、本時のめあてを示しての基礎学力の定着、数学での少人数授業の展開や、長期休業中の学力補充を実施した。実技の科目においては、美術が猛暑の美術室を避けて会議室での授業展開を行った。文化発表会において、合唱や作品展示で、教科授業での努力の結晶が表れていた。また、保健体育では、熱中症に考慮しながらプールでの水泳授業を展開し、安全安心に気を配りながら水泳の技術を高めた。

I C T機器の活用も年々進行しているが、学習用端末活用にチャレンジする教科は限られている。

特別支援教育においては、病弱生徒の入学により、一日中付きっきりの時間ができたが、酸素ボンベの研修を受け、また、シャワー設置など学習環境を整えながら、支援担当と担任が核となり、日々保護者との連携を進めながら対応している。なにより生徒本人の笑顔の多さに、教員の努力が報われている。支援在籍で欠席がちであった生徒において、何人も登校する日が増え、これまでの努力が成果として表れた。

コロナが5類となり、授業や部活動、学校行事がほぼ通常に戻り、体育館での全校集会や生徒会演説会など、全校生徒が一堂に集まる機会が増加した。

しかしながら、不登校生徒は徐々に増え、SNSなどのトラブルが増加し、夏休み前後から二学期に入って、問題行動が多発した。関係諸機関とも連携しながら、その都度対応し、保護者とも良好な関係を築けた。しかし、「心の天気」など生徒の悩みを察知する対策は滞り、きめ細かにアンテナを張る必要があった。心の天気については、11月より月1回必ず実施する日を設け、さらに週3回以上の実施を促している。

スマホ問題については、生徒会役員が交流会に参加し、他校での実践をヒントに校内ルール作りに乗り出した。

健康教育においては、給食の実施日を増加させ、食育の推進を図るとともに、熱中症の予防、手

洗いうがいの徹底と黙食を継続してきた。夏季休業中は一度も救急車を呼ぶことなく、終えることができた。しかしながら、10月に入ってコロナ・インフルエンザの感染拡大が発生し、学級休業が生じ、さらに1月末から2月にかけて、インフルエンザの感染拡大が発生し、学年休業が生じた。

部活動においては、運動部・文化部それぞれで夏休みを中心に頑張りを見せ、大会やコンクールで賞に輝いた。今のところ保護者からの学校に対するクレームは見られないが、顧問の指導をめぐり、退部せざるを得ない部員が出るなど、一部には問題が生じた。さらなる信頼関係の構築のため、今一度プレイヤーズファーストのもと、生徒を大切にする部活動指導に心がけねばならない。

開かれた学校づくりの一環で、学校ホームページの更新に日々力を入れているが、生徒・保護者のアクセスも多く、今年度は2月中旬で10万3千アクセスを超えている。

働き方改革が叫ばれる中、「ゆとりの日」の設定や、欠席連絡アプリ、採点システムの活用を運用するなど試みているが、時間外勤務が長時間になっている教員は多く、部活動の指導時間や夜間の業務削減など検討課題は多い。

学校選択制については、9月の説明会での参加者が増加したことにより、次年度入学者の増加に期待が持て、令和6年度入学者による学級数は、1月末の段階で5学級の見込みである。

大阪市立茨田北中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組まず目標も達成できなかった

| 年度目標 | 達成状況 |
|---|------|
| <p>【安全・安心の教育の推進】</p> <p>全市共通目標</p> <p>○令和5年度末の校内調査において、「いじめは、どんな理由であってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を81%以上にする。 【R4:80.7% R5:85.1%】</p> <p>○令和5年度末の校内調査において、不登校在籍比率を前年度より減少させる。 【R4:7.47% R5:13.8%】</p> <p>○令和5年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。 【R4:51.1% R5:調査中】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○令和5年度の生徒アンケートにおける「学校の規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を90%以上にする。 【R4:97.5% R5:94.5%】</p> <p>○令和5年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を100%にする。【R4:100% R5:100%】</p> <p>○令和5年度2学期末の生徒アンケートにおける「係や当番の仕事をすすんでしている」の項目について「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。【R4:94.1% R5:90.7%】</p> <p>○令和5年度2学期末の保護者アンケートにおける「学校は積極的に保護者や地域に情報発信を行っている」と答える保護者の割合を70%以上にする。【R4:93.0% R5:94.5%】</p> | B |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 達成状況 |
|--|------|
| <p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>学習規律を維持するため、「時を守り 場を清め 礼を正す」ことに留意して集団育成し、挨拶運動や清掃活動、遅刻防止のためのチャイム着席等の取組を生徒会・委員会活動の一環として取組む。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>年間をととして学習規律を維持する取組を行い、生徒アンケート等により検証する。</p> <p>令和5年度2学期末の生徒アンケートにおける「チャイムが鳴ったら、すぐに授業が受けられるように準備している。」の項目について「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を90%以上にする。【R4:84.7% R5:79.4%】</p> | C |
| <p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>いじめを未然に防止し、不登校への早期対応を図るための取組を行う。</p> <hr/> <p>指標</p> | B |

| | |
|--|---|
| <p>毎学期1回以上いじめアンケートを実施と、日常的な生徒観察で状況把握および指導に当たる。また、いじめ対策委員会・虐待防止委員会を毎月開催する。必要に応じてケース会議を招集する。年間2回の教育相談により生徒に寄り添うとともに、不登校についての校内研修会を行う。</p> <p>学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を100%にする。</p> <p style="text-align: right;">【R4:100% R5:100%】</p> | |
| <p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>自尊感情を高め、規範意識を醸成するため、道徳教育や人権教育、国際理解教育等の取組を進める。加えて一人一人を大切にする特別支援教育の充実と工夫を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>各学級とも年間35時間の道徳の授業を実施する。また、道徳の授業力を向上させる研究授業を実施する。各学年とも発達段階に応じた性教育を実施する。</p> <p>令和5年度2学期末の生徒アンケートにおける「学校の規則を守っている。」の項目について「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を90%以上にする。</p> <p style="text-align: right;">【R4:97.5% R5:94.5%】</p> | B |
| <p>取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>自らの将来について考えさせるとともに、正しい職業観を養わせ、夢や希望をもって生きることができるようキャリア教育の充実に努める。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>1年生で職業講話、2年生で職場体験またはそれに代わる体験活動、3年生で高校体験授業という系統立てた取組を実施する。</p> <p>令和5年度2学期末の生徒アンケートにおける「将来の夢や目標を持っている。」の項目について「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を75%以上にする。【R4:64.3% R5:65.7%】</p> | B |
| 年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析 | |
| <p>学習規律を維持する「時を守り 場を清め 礼を正す」集団育成において、挨拶運動や清掃活動、遅刻防止のためのチャイム着席等の取組を生徒会・委員会活動の一環した取り組みにより、指標による数値は昨年度より下回っているものの、高い水準は保っている。</p> <p>いじめについては、一学期で若干、二学期に入って、生徒間で数件発生した。その都度指導し、保護者への啓発も繰り返しているが、安易な発言や書き込みが原因のほとんどであり、継続しながら全体指導を進めていく必要がある。いじめ防止はもちろんのこと、早期発見・早期対応を行うため、ここまで不十分であった「心の天気」「相談機能」を頻繁に活用することで、安全安心を推進する必要がある。</p> <p>不登校については、年々増加する傾向があるが、小学校からの聞き取りを十分に行うとともに、生徒本人と保護者に寄り添う気持ちを高めながら、集団生活や学校生活に楽しさや幸せがあることをアピールしなければならない。支援教室など活用の幅が広がり、救われている生徒も増える中、まわりの支えをプラスに転じて不登校減少に向け、一丸と一になって知恵を絞り取り組む必要がある。</p> <p>全国数値に比べて低い自尊感情・自己肯定感の高揚には、積極的なキャリア教育の取入れとともに、ほめて育てる教育方針をさらに浸透させる必要がある。</p> | |
| 次年度への改善点 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・心の天気を少なくとも週3回実施し、担任だけでなく、学年で確認し、トラブルの未然防止に努める。 ・いじめが発生しないよう、見守りを継続するとともに、生徒からの訴えや声を聴ける体制を作り | |

上げる。

- ・校則の見直しに努め、理不尽な部分があれば改善を図る。
- ・生徒会活動や委員会活動を積極的に進め、これまで通りから、新しい取り組みにチャレンジをしていく意識を育てる。
- ・さらなる不登校を生み出さないために、核となる学級の仲間づくりをあらゆる場面で育てる。

大阪市立茨田北中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

| 年度目標 | | | | | | 達成 状況 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---------|---------|---------|------|---------|----------|---------|----|------|------|------|----|------|------|------|--|------|------|---------|------|------|------|------|--|
| 【未来を切り拓く学力・体力の向上】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 全市共通目標 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○令和5年度2学期末の生徒アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する割合と令和5年度全国学力・学習状況調査における正答率を府平均よりも向上させる。 【アンケート R4:22.1% R5:34.1%】 【全国学力・学習状況調査 R4：国語 1.02 数学 1.07 R5:国語 1.00 数学 0.96】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的の比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <table><tr><td>現3年生</td><td>1年時(R3)</td><td>2年時(R4)</td><td>3年時(R5)</td></tr><tr><td>国語</td><td>1.02</td><td>1.03</td><td>1.05</td></tr><tr><td>数学</td><td>1.03</td><td>1.08</td><td>1.04</td></tr></table> | | | | 現3年生 | 1年時(R3) | 2年時(R4) | 3年時(R5) | 国語 | 1.02 | 1.03 | 1.05 | 数学 | 1.03 | 1.08 | 1.04 | <table><tr><td>現2年生</td><td>1年時(R4)</td></tr><tr><td>国語</td><td>1.0</td></tr><tr><td>数学</td><td>0.95</td></tr></table> | | 現2年生 | 1年時(R4) | 国語 | 1.0 | 数学 | 0.95 | |
| 現3年生 | 1年時(R3) | 2年時(R4) | 3年時(R5) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 国語 | 1.02 | 1.03 | 1.05 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 数学 | 1.03 | 1.08 | 1.04 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 現2年生 | 1年時(R4) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 国語 | 1.0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 数学 | 0.95 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○大阪市英語力調査におけるCEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を85%以上にする。 【R4:66.9% R5:58.7%】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○年度末における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きですか」に対して、最も肯定的な「すき」と回答する生徒の割合を50%以上にする。 【R4:46.25% R5:53.8%】 | | | | | | C | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学校園の年度目標 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○令和5年度の中学校チャレンジテストにおける対府平均比を、令和4年度より向上させる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <table><tr><td>3年</td><td>国語</td><td>社会</td><td>数学</td><td>理科</td><td>英語</td></tr><tr><td>R4</td><td>1.02</td><td>0.95</td><td>1.07</td><td>1.07</td><td>1.10</td></tr><tr><td>R5</td><td>1.05</td><td>0.94</td><td>1.04</td><td>1.09</td><td>1.00</td></tr></table> | | | | | | 3年 | 国語 | 社会 | 数学 | 理科 | 英語 | R4 | 1.02 | 0.95 | 1.07 | 1.07 | 1.10 | R5 | 1.05 | 0.94 | 1.04 | 1.09 | 1.00 | |
| 3年 | 国語 | 社会 | 数学 | 理科 | 英語 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| R4 | 1.02 | 0.95 | 1.07 | 1.07 | 1.10 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| R5 | 1.05 | 0.94 | 1.04 | 1.09 | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○令和5年度2学期末の生徒アンケートで「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について「している（どちらかといえばしている）」と答える生徒の割合を令和4年度より向上させる。 【R4:50.0% R5:51.9%】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○令和5年度2学期における授業アンケートで「授業がわかりやすい」と答える生徒の割合を全体の70%以上にする。 【R4:78.9% R5:75.6%】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○令和5年度2学期末の生徒アンケートで「朝食を毎日食べていますか」の項目について、「食べていない（あまり食べていない）」と答えた生徒の割合を前年度より減少させる。 【R4:4.5% R5:7.6%】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○令和5年度末の生徒アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気を付けている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を70%以上にする。 【R4:93.4% R5:89.1%】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○令和5年度末の生徒アンケートにおける「部活動に積極的に参加している」の項目について、 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|--|--|
| 「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 80%以上にする。 【R4:79.0% R5:74.3%】 | |
|--|--|

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 達成状況 |
|--|------|
| <p>取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の増加】</p> <p>わかりやすい授業、個に応じたきめ細かな指導の充実に努める。また、体験的、問題解決的な学習を取り入れ、生徒の学習に対する意欲や関心を引き出し、自主的・意欲的に取組もうとする態度を育てる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>主体的・対話的で深い学びやICTの効果的な活用等を取り入れた授業を推進する。全教員による研究授業と相互授業参観、公開授業と研究協議会等を実施し組織的な授業改善を推進する。</p> <p>令和5年度2学期末の生徒アンケートにおける「学校の授業はわかりやすく楽しくて、満足している。」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を70%以上にする。【R4:78.9% R5:75.6%】</p> | B |
| <p>取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の増加】</p> <p>本校生徒の課題である家庭学習習慣を定着させるための取組を推進する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>各教科の授業で復習を主とした家庭学習のための課題を与える。また、学校元気アップ支援員と連携し、生徒が自由に活用できる自主学習プリントを作成する。</p> <p>令和5年度2学期末の生徒アンケートにおける「1日平均1～2時間、家で勉強している。」と答える生徒の割合を前年度より向上させる。【R4:49.1% R5:50.4%】</p> | B |
| <p>取組内容③【基本的な方向 5 健やかな体の育成】</p> <p>自らの健康に関心を持ち、体力の向上に対する意欲を育てるための取組について、食育を含めて推進する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>保健体育指導や部活動の充実、生徒による保健委員会を活性化させ、その活動を中心とした生徒の意識の向上を図る。</p> <p>令和5年度2学期末の生徒アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を70%以上にする。【R4:93.4% R5:89.1%】</p> <p>令和5年度末の生徒アンケートにおける「部活動に積極的に参加している」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。 【R4:79.0% R5:74.3%】</p> | B |
| 年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析 | |
| <p>全国学力・学習状況調査の結果において、府平均と比較すると、国語は同じ、数学・英語はやや下回り、全国とは差がついてしまった。</p> <p>令和5年度の中学校チャレンジテスト（3年）において、府平均と比較すると、国語・数学・理科はやや上回り、英語は同じ、社会はやや下回った。</p> | |

家庭学習においては、宿題や復習ができている生徒も多いが、宿題未提出生徒も少なくなく、本人及び家庭への啓発が必要である。

本時のめあてを示しながら、ＩＣＴ機器活用のわかりやすい授業展開は増加した。しかし、居眠ってしまう生徒も見られ、読解力の育成及び指導者の注意喚起が必要となる。また、一斉授業スタイルからペア学習や班学習スタイルの取入れ、主体的で対話的な深い学びの実践が、まだ進んでいない部分もある。

コロナにより健康に関心を持つ生徒は増加し、給食前の手洗いうがいは徹底されている。また食育も進行し、配膳係のエプロン等の準備も定着した。不登校生の多さから残食も多いが、出席生徒はお代わりの挙手も多く、しっかり栄養摂取ができている。

部活動については、一部退部率の高い部もあるが、おおむね積極的に参加し、その結果、夏・秋の大会・コンクールで好成績を収めた。

次年度への改善点

- ・次年度から「総合的読解力」の授業実践も始まる。わかる授業を基本に、一斉授業からの脱却する時間をどんどん取り入れ、生徒が主体的に学ぶ時間、考えをまとめて発表する時間を積極的に生み出し、自らやる気を奮い立たせる授業スタイルへと変化させる。
- ・基礎学力定着のための家庭学習の重要性を、生徒及び保護者へさらに啓発する。また、学習用端末の家庭への持ち帰りを検討していく
- ・不登校生も含め、学びの場を広く保障する。

大阪市立茨田北中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

| 年度目標 | 達成状況 |
|--|------|
| <p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>○デジタル教材を活用した朝学習を週2回以上実施する。</p> <p>○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を60%以上にする。【R4:43.9% R5:37.5%】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○令和5年度末の校内調査における「日々の学習活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を60%以上にする。【R5:3.0%】</p> <p>○令和5年度末の校内調査における「日々の学習活動の中でプロジェクターを使用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を70%以上にする。</p> <p>○令和5年度末の生徒アンケートにおける「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を前年度より向上させる。【R4:62.0% R5:57.9%】</p> | C |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 達成状況 |
|--|------|
| <p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）】</p> <p>ICT機器を日常的に活用することで授業を主に、学びを支える教育活動を充実させる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>令和5年度末の校内調査における「日々の学習活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を70%以上にする。【R5:3.0%】</p> | C |
| <p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>教員の授業力を向上させるため、研究授業、相互参観、研修を充実させる。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>令和5年度2学期末の教職員アンケートにおける「研究授業、相互参観、研修を積極的に行っている」の項目について、肯定的に答える割合を前年度より2ポイント増加させる。【R4:53% R5:40%】</p> | C |
| <p>取組内容③【基本的な方向9 家庭・地域との連携・教働した教育の推進】</p> <p>学校元気アップ地域本部事業による学習支援や図書館運営等の取り組みを充実させるとともに、学校の情報を積極的に発信し、地域や保護者の理解を得られるように努め、密接な協力関係を構築する。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>毎月、「元気アップ便り」を発行し、毎日、学校ホームページを更新する。また、学年便り、学校だより、保健室便りを定期的に発行する。</p> | C |

| | |
|--|--|
| <p>令和5年度2学期末の生徒アンケートにおける「読書は好きである」の項目について、「あてはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を前年度より向上させる。</p> <p>【R4:62.0% R5:57.9%】</p> | |
| <p>年度目標の達成状況や取り組みの進捗状況の結果と分析</p> | |
| <p>「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1（①1 か月の時間外勤務時間が45時間以内 ②1年間の時間外勤務時間が360時間以内）を満たす教員の割合は、期待の値には届かず、さらに、昨年度より下回っている。</p> <p>授業での学習者用端末の利用は、ICT支援員のサポートで増加しているものの、期待の値には届いていない。タブレット端末活用の研修や、若手教員からベテラン教員への技術の伝授が不足しているため、さらなるチームワークが必要となる。</p> <p>年間一度以上の研究授業は、それぞれの教員の創意工夫で内容の濃いものが多々見られ、一斉外の授業スタイルも見られる。授業が空いている場合は、多くの教員に短時間でも参観してもらいたい。</p> <p>「心の天気」活用については、昨年度の活用が継続できず、自然に停滞した。命・いじめなど生徒の状況把握に不可欠であり、重要なアンテナツールとなるため、少なくとも週3回の入力が必要とする。</p> <p>図書室の活用は、支援スタッフの皆様のおかげで、頻繁に利用する生徒もいる。貸出冊数などまだまだ利用価値は高いので、スタッフ任せにせず生徒たちへ啓発していく必要がある。</p> <p>地域の皆様には「元気アップだより」の発行や、サポートスタッフとして様々な分野で支援していただいている。心から感謝するとともに、積極的にコミュニケーションを図りながら、チームの仲間意識を育てたい。</p> <p>校庭の樹木選定や毎日の落ち葉の掃除、校舎内外の不備な部分の補修や塗装が、飛躍的に達成できている。感謝とともに、その姿の大切さを生徒たちに指導していきたい。</p> | |
| <p>次年度への改善点</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・「ゆとりの日」の有効活用、業務の精選を図る。 ・学習用端末の活用は心配される点など多々あるが、教科での利点、学級・学年の取り組みで積極的に活用を図る。 ・多様な業務がある中で、教材研究に時間を割くことが難しいが、自分に合ったツールを活用しながら、わかる授業、楽しい授業の実践、やる気の起こる主体的な学びを創造する。 | |

(1) 国語

| 取組内容（指標） | | 達成状況 |
|--|---|------|
| ① 基本的な読み書きの力を育成する | B | B |
| ② 伝統的な文学に意欲を持って取り組めるように工夫する。 | B | |
| ③ デジタル教材を活用し、主体的・対話的な学びの実現に努める。 | B | |
| ④ 豊かな表現力を育成するために、読書・作文の指導を充実させる。 | B | |
| 結果と分析 | | |
| ① 家庭学習のために、復習プリントや問題集、漢字プリントなどを活用し、小テストを行い、基礎的な読み書きの力の養成に努めた。 | | |
| ② 古典教材を中心に自作のプリント教材を取り入れた。資料集等を活用して歴史的背景などを含め文学的価値についても造詣を深め、古典文学の学習において、学びへの意欲向上に努めた。 | | |
| ③ デジタル教科書の活用はもちろん、パワーポイントを使った教材を自作して授業に取り入れた。さらに提示した本文を批判的に読むなど、主体的な学びの実現に取り組んだ。小テストや実力テストなどで自動採点システムを活用した。 | | |
| ④ 新入生には図書館オリエンテーションを行い、読書活動の充実に努めた。授業では、書く力を伸ばすため初発の感想を書くなどの取り組みを行い、書くことへの苦手意識の軽減に尽力した。また、書写の授業をはじめ、短歌や俳句を創作するなど、様々な表現力の育成につながる取り組みを行った。 | | |
| 次年度への改善点 | | |
| 基礎的な読み書きの力や語彙力をつけるため、家庭学習の機会をつくる取り組みを継続する。 ICTを活用して授業の充実を図り、各学年の状況に即した工夫を取り入れ、学力の向上を目指す。 | | |

(2) 社会

| 取組内容（指標） | | 達成状況 |
|---|---|------|
| ① 教材研究や生徒との十分なコミュニケーションに努め、生徒の「関心・意欲」を高めるような授業を展開する。 | B | B |
| ② 資料（史料）の内容を読み取らせ、自分の考えを文章にまとめる機会を設けることで、技能力や思考・判断・表現力をつけさせる。 | B | |
| ③ 小テストの実施や問題集の活用を通じて、単元ごとの知識を定着させる。 | B | |
| ④ ICT機器を効果的に使用することで、授業内容の膨らましにつなげる。 | B | |
| 結果と分析 | | |
| ① 各学年において、生徒の「関心・意欲」を高めるために、日々教材研究に努めた。 | | |
| ② プロジェクターで資料を映し出し、それを読み取らせ、発表につなげた。 | | |
| ③ 問題集の活用を通じて、単元ごとの一定の知識を定着させることに努めた。 | | |
| ④ スクリーンを使い画像を映して、授業内容の膨らましにつなげることができた。 | | |
| 次年度への改善点 | | |
| ① ICT機器を効果的に活用することで、さらに生徒の「関心・意欲」を高める授業づくりに努める。 | | |

| |
|--|
| ② 生徒用パソコンを使い、資料の内容を読み取らせ、発表の場を設ける。 |
| ③ 復習プリントや問題集の活用、定期テスト、実力テスト、大阪府チャレンジテストの結果を通じて、生徒の学習到達度を把握し、学年の実情に応じた学習指導に努める。 |
| ④ 生徒に学習者端末を使う授業を行い、さらに授業内容の膨らましにつなげる。 |

(3) 数学

| 取組内容（指標） | | 達成状況 |
|---|---|------|
| ① 数式分野の理解を深めるために、反復練習を行い、基礎学力の定着に努める。 | A | A |
| ② 少人数習熟度別授業やチームティーチングを実施し、個に応じた学力の伸長に努める。 | B | |
| ③ 生徒が主体的に学習に取り組める教材を作成し、対話的な活動を通じて学力向上に努める。 | A | |
| 結果と分析 | | |
| ① 副教材を用いて授業のはじめの復習や自宅での自主学習を推進し、反復練習に努めた。 | | |
| ② 習熟度別授業を通じて生徒の実態に応じた学びを深めることができた。また、チームティーチングを行い、個に応じた学力の伸長に努めた。 | | |
| ③ 各学年で、生徒の実態に応じて授業プリント・課題を用意した。また、場合に応じてグループ活動を実施し学びを深めた。 | | |
| 次年度への改善点 | | |
| ① 今年度と同様、学年に応じて繰り返し演習を行うとともに、場合に応じて前の学年の分野についても復習を行う。 | | |
| ② 場合に応じて少人数授業やチームティーチングを使い分けていく。 | | |
| ③ グループ学習の仕方について考え直し、より良い方法を見つけて実施する。 | | |

(4) 理科

| 取組内容（指標） | | 達成状況 |
|---|---|------|
| ① 基礎の定着をはかり、応用問題にも対応できるよう読解力を高める。 | B | B |
| ② 実験・観察学習などの体験的な学習を通して、探求心を高め科学的な思考を養う。 | B | |
| ③ 視聴覚機器を活用した授業を行うことを創意工夫する。 | B | |
| 結果と分析 | | |
| ① 基礎力の定着に、各学年で宿題などの基礎課題・小テストの実施を行い、応用問題の対応と読解力の向上に努めた。各学年内での実施回数や習熟を考察し、チャレンジテストを視野に入れたものを取り入れたが思考。 | | |
| ② 単元ごとに一定回数の実験を行い、日常生活との関連性や事象の確認をして、生徒の探求心を高め科学的思考を養う一端となった。学年人数や季節等で実施が遅れることもあった。 | | |
| ③ ICT 機器での、事象の確認や校内の実験では確認できないことを視覚的に確認させた授業を展開させた。 | | |
| 次年度への改善点 | | |

- ① 自動採点システムの採用によって、全体の正答率が明確になったことで、分野内の得手不得手がわかるようになったので、基礎課題の重点地点や小テストの実施部分を熟考した上で、応用問題の対応や読解力の向上に利用していきたい。また、不備や漏れのないように点検にも努めていきたい。
- ② 各学年で単元が重複し、連続した実験をできない場面もあるため、次年度の年間指導計画での確認を行い、実験を行う季節等も考慮した計画を立てていきたい。
- ③ 授業内での視覚的確認はできているが、生徒による活用も視野にいれて生徒による創意工夫をさせていきたい。特に、学習者用端末の活用などにも努めたい。

(5) 音楽

| 取組内容（指標） | | 達成状況 |
|---|---|------|
| ① プリントなどを使用して学習内容の要点を明確にし、基礎学力の定着を図る。 | A | A |
| ② 歌唱や器楽の表現や技術の向上を図る。 | B | |
| ③ ICT 機器を活用し「音の視覚化」で授業を展開し、生徒の興味関心への工夫を凝らす。 また、ICT 機器の活用を行い、自ら学ぶ姿勢を養う。 | A | |
| 結果と分析 | | |
| ① 教科書の内容をプリントにし、端的にまとめ、テスト前の復習をしやすくしている。また、楽典の内容もプリントで出し、学習を深めるようにしている。結果、定期テストでの基礎知識の部分は平均 72% 取ることができた。 | | |
| ② ただ歌うだけではなく、強弱記号、言葉の意味、音の当て方など考え、表現技術の向上を図った。器楽の指導も必ず基礎練習を入れ、苦手な生徒もまずは音階を吹けるように指導を行っていった。それにより、音階はほとんどの生徒が吹けるようになった。 | | |
| ③ 調べ学習を各学年で行うほか、デジタル教科書、独自で作っているパワーポイントを常時活用し、見やすく、わかりやすい授業展開を意識して行っている。 | | |
| 年度末への改善点 | | |
| 指導をしたい内容が授業数を考えると難しく、内容をもう少し精査し、授業数にあった授業展開を考える必要があると考える。 | | |

(6) 美術

| 取組内容（指標） | | 達成状況 |
|---|---|------|
| ① 教科書・資料集の他に、ワークプリントなどを使い学習内容の要点を明確にし、生徒が主体的に学習する姿勢を養う。 | A | B |
| ② 生徒が互いの作品の鑑賞活動を通して、相互に作用して対話的な学びから自己の考えや表現を深めさせる。 | B | |
| ③ ICT 機器を活用し、視覚化を通して思考を高め、より深い学びにつなげる。 | B | |
| 結果と分析 | | |
| ① 生徒に合わせた学習用のプリントワークを準備し、基礎的な技術の習得に努めた。 | | |
| ② 完成作品の鑑賞と制作途中に生徒同士の作品や作業工程を鑑賞する時間を設け、互いの表現のすばらしさを知り、自らの学習につなげる姿勢を養うことができた。 | | |
| ③ 書画カメラや実技の実演動画を作成し、より深い学びにつなげた。生徒用端末を使用して | | |

| 次年度への改善点 | |
|---|--|
| 学習者用端末をもっと活用し、生徒の理解と表現の幅が広がるように導く必要があると考える。 | |

(7) 保健体育

| 取組内容（指標） | | 達成状況 | |
|--|--|------|---|
| ①【集団行動の充実】 集団行動やグループ活動を充実させ、規律ある態度と自ら学ぶ姿勢を育てる。 （指標）アンケートを実施し、「意欲的に取り組めた。」「どちらかというと取り組めた」と答える生徒の割合を70％以上にする。 | | A | A |
| ②【健康・体力の保持増進】 運動の合理的な実践により、基礎体力の向上を図ると共に自発的に運動に親しむ習慣を育てる。 （指標）新体力テストの結果で昨年度の自己記録を超える生徒の割合を70％以上にする。 | | A | |
| ③【言語力や論理的思考能力の育成】 健康・安全に関する理解を通して思考力・判断力を育てる。 （指標）・ICTや教科書などを活用し、実際に自分の理解を深めさせアドバイスを増やす。試験ごとにワークをチェックし確認する。 | | B | |
| 結果と分析 | | | |
| ① 集団行動や各種目の単元では積極的にグループ活動を取り入れて、生徒が自ら考えて取り組める環境に近づけるように指導している。ただ、アンケートの実施では、70％以上にすることができた。ただ、競技や種目によって偏りがあるため、より意欲的に取り組めるように改善していく。 | | | |
| ② 自らの体力の向上を目指して、毎授業トレーニングを行い、昨年度の記録を更新できるように取り組んできた結果70％以上の生徒が昨年度の記録を更新することができた。持久力・敏捷性・筋力の項目は高く、スピードや柔軟性の項目を向上させるように検討していく必要がある。 | | | |
| ③ 保健分野では積極的にICTを活用している。競技種目でも説明するときに実技の本を活用したり、プリントを使ってハードル走の記録を分析することができた。 | | | |
| 次年度への改善点 | | | |
| ① 総合的に見れば記録を更新できているが、項目によっては低い記録もあるので、特に50m走などのスピードの記録を上げれるように改善する必要がある。 | | | |
| ② 物理的な問題として学習者用端末のない生徒やデータがいっぱいで動画が取れないなどのハード面の問題を解決する必要もある。あと、ICTや説明が増えることで運動量などの確保などもバランスよく考える必要がある。 | | | |

(8) 技術・家庭

| 取組内容（指標） | | 達成状況 |
|--|---|------|
| ① グループワークや制作学習で他者と協働し、対話的な学びを深め、生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得させる。 | A | B |
| ② 現在及び将来を見据えて、生活や社会の中から課題を見出しその解決のために、学習を振り返り、評価・改善をして、新たな課題に主体的に取り組む姿勢を育てる。 | B | |
| ③ 学習内容の理解度を深めるために ICT の有効活用を図る。 | B | |
| 結果と分析 | | |

| |
|---|
| ① 全学年ともグループでの活動を通して協力して基本的な技術を使い、実習に意欲的に取り組むことができた。また、グループワークを取り入れ、主体的、対話的取り組みをすることができた。 ② 特に生活に即した内容を扱う単元は、自身の生活を見直し、今できること、将来に向けてすべきことなどを考えることができた。 ③ 学習者用端末を使用して学習に取り組むことができた。 |
| 次年度への改善点 |
| ICT の活用を教師からの一方通行ではなく、グループでの活用や発表などに使えるように工夫し、これまでの学習内容をもとに生徒自身の生活と教科の関連について理解が深められるように教材研究を深めていきたい。 |

(9) 英語

| 取組内容（指標） | | 達成状況 | |
|--|--|------|---|
| ① 5技能を使用する言語活動を通じて、コミュニケーションを図る資質・能力を育成させるよう努める。 | | B | B |
| ② デジタル教材やC-Net を効果的に活用し、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う | | B | |
| 結果と分析 | | | |
| ① ペアやグループワークを通して、コミュニケーション活動を活発に行うことができた。 リスニング問題や読みトレを活用した帯活動や、毎回の単語テストを通して、復習をすることができた。 | | | |
| ② 毎回、デジタル教材を活用することができた。C-NETとの授業では、1対1の会話を通して、特に話す力をはぐくむことができた。 タブレットを使って、プレゼンテーションをすることができた。 | | | |
| 次年度への改善点 | | | |
| ① 自宅学習の徹底を図るような意欲付け、教材を研究する。 | | | |
| ② C-NET との会話の機会をさらに増やす工夫をする。 | | | |

(10) 道徳

| |
|---|
| 目標： 正しい人権意識を身につけ、違いを認め合い、道徳性や思いやりの心を育てることに努める。 |
|---|

| 取組内容（指標） | | 達成状況 |
|---|---|------|
| ① 内容項目を確認しながら、各学年で読み物資料を使用した授業を行い、授業を通じて豊かな心を育てる。 | B | B |
| ② 学年間で協議しながら、授業内容の充実に向けて取り組む。 | B | |
| ③ 学級での集団作りや学年行事、学校行事の取り組みを通じて、人権尊重の精神を養う。 | B | |
| 結果と分析 | | |
| ① 各学年道徳の時間の確保に努め、教科書を使用して計画に沿った授業を行うことができた。 | | |

| |
|--|
| ② 学期に2回委員会を開き、各学年の進捗状況や授業内容を共有し、話し合うことができた。 |
| ③ 学級での仲間づくりや学校行事、学年行事の取り組みを通して、思いやりの心を育てることに努めた。 |
| 次年度への改善点 |
| 各学年とも道徳の授業時間を確保し、生徒に応じた工夫をして教科書を活用した授業を行った。 授業内容については、委員会の中で共有し、評価も含めて検討してきた。次年度は、さらなる授業内容の充実に向けて、相互参観の機会を増やし他校の実践も参考にしながら、共有した内容を具体的に生かせるよう取り組みたい。 |

(11) 特別活動

| |
|---|
| 目標： 自律的生活態度を育成し、互いに尊重し合う集団づくりに努める。 |
|---|

| 取組内容（指標） | | 達成状況 |
|---|---|------|
| ① 生徒会・専門委員会活動の活性化を図り、積極的に参加させる。 | B | B |
| ② 学校行事・学年行事の活性化を図り、積極的に参加させる。 | A | |
| ③ 部活動の活性化を図り、積極的に参加させる。 | B | |
| 結果と分析 | | |
| ① 2 学期の生徒アンケートより、「委員・係当番の仕事は進んでしている」の項目について、あてはまる生徒の割合が 90.7%であったことから、自覚をもって取り組めた。 | | |
| ② 2 学期の生徒アンケートより、「体育大会、文化発表会、校外学習などの学校行事は楽しい」の項目について、あてはまる生徒の割合が 93.6%であったことから、生徒たちは前向きな気持ちで参加でき、取り組めた。 | | |
| ③ 2 学期の生徒アンケートより、「部活動に積極的に活動している」の項目について、あてはまる生徒の割合が 74.3%であったことから、部活動への意欲が若干低下してきている。 | | |
| 次年度への改善点 | | |
| <p>部活動については、積極的に参加することが活性化につながり、一定学校の落ち着いた状況にも影響していることから、部活動の活性化していくよう取り組む。</p> <p>委員会活動や学校行事についても、与えられた責務については自覚をもって取り組んでいた。一方で、生徒会の立候補などに関して消極的なところもあり、大人から声かけによるものが見受けられる。そのため、2 学期の生徒アンケートで、「自分には良いところがあると思う」の項目について、あてはまる生徒の割合が 74.2%であったことから、「できる」という自信をもたせられるよう支援し、自己肯定感を高める活動を行っていく必要がある。</p> | | |

(12) 進路指導

| |
|--|
| 目標： 自己理解を深めさせるとともに、探求心を持って主体的に進路選択ができるための能力・態度を育てるよう3年間を見通した指導に努める。 |
|--|

| 取組内容（指標） | 達成状況 |
|----------|------|
|----------|------|

| | | |
|---|---|---|
| ① 発達段階に応じ、各学年に適した進路指導計画を立て、系統的・継続的に進路学習を実施する。 | B | B |
| ② 社会の一員としての在り方や職業観・勤労観を育成するために、地域社会や関係諸機関との連携を密にして、体験的学習を系統的に行う。 | C | |
| ③ 進路についての目的意識を高めるために、学校説明会や体験学習への参加の推進、進路説明会等による進路情報の提供、進路資料を活用した学級活動や進路相談を行う | B | |
| 結果と分析 | | |
| <p>① 1 学年では、ライフプランニングについて生命保険会社からの出前授業を行い、人生設計の重要性について学ぶとともに、自己理解の促進に繋がった。2 学年では、職場体験学習の代替として、様々な職業に携わる方々からの職業講話を複数回実施し、それぞれの職業に対する理解を深め、将来の進路選択に対する洞察を得る手掛かりとした。3 学年では、高等学校 12 校からの出前授業を実施し、多くの高等学校の特色に触れ、具体的な進路計画を考える一助となった。</p> <p>② コロナ禍以降も、様々な理由から実地経験の提供が制約され、生徒が現場での実践を体験する機会が制限される状況が続いており、実際の職場や仕事の環境に触れる機会をコロナ禍以前のようにとることが難しい状況であった。</p> <p>③ 3 学年において、卒業後の進路実現に向けて6月、11月の年2回「進路の手引き」を活用した進路説明会を行った。また、高等学校などから届いた郵便物は速やかに生徒の手に渡し、新鮮で正しい情報提供を行うことによって、学校説明会等への参加の促進に繋がった。また、3 学年各クラスにおいても、主に担任より進路選択のための適切な情報提供がなされ、丁寧な進路相談が行われていた。</p> | | |
| 次年度への改善点 | | |
| <p>① 各学年の取り組み内容を共有し、次年度以降3年間を見通した進路学習への礎としたい。</p> <p>② 教育機関や企業との協力を通じて、新たな形の実地学習やキャリア教育のプログラムを構築し、生徒たちがより多様な職業や勤労に触れることができるよう努めたい。</p> | | |

(13) 生活指導の重点

| |
|---|
| 目標: 基本的な生活習慣の定着を図り、集団の規律を学ばせ、正しい判断のできる生徒の育成に努める。 |
|---|

| 取組内容（指標） | | 達成状況 |
|---|---|------|
| ①【規範意識の育成】 集団生活のルールを守れる生徒を育成する。 時間を守れる生徒を育成する。 | A | B |
| ②【基本的生活習慣の確立】 挨拶のできる生徒を育成する。 正しい言葉使いのできる生徒を育成する。 | B | |
| ③【家庭・地域との連携】 教育相談を充実させて、保護者との綿密な連携を行う。 | A | |
| 結果と分析 | | |
| ① 2学期の生徒アンケートより、「学校の規則をまもっていますか」の項目について、あてはまる生徒の割合が94.5%であり、「チャイムが鳴ったら、すぐに授業が受けられるように準備している。」と答えた生徒は79.4%であったことから、学校生活の習慣が一定定着した。 | | |

| |
|---|
| ② 2学期の生徒アンケートより、「自分から進んであいさつしている」の項目について、あてはまる生徒の割合が83.7%であり、「正しい言葉遣いや礼儀が身についている」と答えた生徒は87.5%であることから、学校生活における基本的な生活習慣が一定確立されていた。 |
| ③ いじめアンケートを年間9回、教育相談を年間3回取り組み、一人一台端末の「心の天気」「相談申告」を活用した結果、2学期の生徒アンケートでは、「先生は親身になって相談にのってくれる」の項目について、あてはまる生徒の割合が89.4%であり、一定生徒に寄り添った対応ができた。「不登校」「いじめ」「SNS」の問題に対しても取り組めた。 |
| 次年度への改善点 |
| 学校での基本的な生活習慣について確立している生徒は多くなってきているが、2学期の生徒アンケートより、「毎晩何時ごろ寝ていますか」の項目について、12時以降の生徒の割合が26.3%であり、また、「毎日どのぐらいゲームをしますか」の項目について、2時間以上の生徒の割合が54.7%、「毎日どのぐらい通話やメール、ネットをしますか」の項目について、2時間以上の生徒の割合が30.5%であったことから、家庭での生活習慣については改善が必要な生徒もあり、不登校へつながる恐れがある。また、通信機器を使用するトラブルが引き起こされる可能性がある。さらに家庭との連携を密にし、改善を図っていく必要がある。 |

(14) 保健管理・指導の重点

| |
|--|
| 目標：食育や体力向上を通して健康的な生活習慣を身に付け、環境づくりと安全・美化に努める。 |
|--|

| 取組内容（指標） | | 達成状況 |
|--|---|------|
| ①【健康的な生活習慣Ⅰ】健康診断後の受診率を高める。（う歯・視力） | B | B |
| ②【健康的な生活習慣Ⅱ】保健便り等を通して体力向上や食に対する意識を高める。 | B | |
| ③【現代的課題】生徒が主体的に校内美化に努め、環境問題について考えさせる。 | B | |
| 結果と分析 | | |
| ① 保健便りでの周知や懇談の機会を利用し、追跡調査を実施し、治療勧奨した。 | | |
| ② 保健便りや、保健委員会を中心とした文化発表会展示を通して、意識を高めることができた。 | | |
| ③ 環境委員会で、校内環境ポスター制作や清掃区域の清掃道具の整備・花壇の水やりを指導し、生徒が自主的に校内美化に取り組むよう指導できた。 | | |
| 次年度への改善点 | | |
| ① 継続して、受診率を高めるよう懇談等を利用して、治療・受診の啓発をしていく。 | | |
| ② 食や健康に対する、意識高める工夫を考えさせ、被災等を考えたものとして実践させるような取り組みを行った。 | | |
| ③ 生徒による自主的な校内美化や緑化運動をさらに進めた。 | | |

(15) 教員の研修の重点

| |
|---------------------|
| 目標：教育活動への研究と修養に努める。 |
|---------------------|

| 取組内容（指標） | 達成状況 |
|----------|------|
|----------|------|

| | | |
|--|---|---|
| ①【授業研究】 教職員相互の授業研究・研修を促す。情報を共有し、指導力向上に役立てる。 | B | B |
| ②【研修内容の確立】 新転任研修・新任研修・中堅研修・生徒情報交換・特別支援研修・校内共通確認事項の周知を基本とし、今後必要とする研修内容を調整する。 | A | |
| ③【研修計画】 外部からの講師を依頼し研修の場を設けるよう日程調整する。 生活指導・学級経営・ICT教育・特別支援教育・人権教育・平和教育等、教職員の修養となるよう努める。 | A | |
| ④【小中連携】 小学校教員と情報を共有し、同地域の連携を密にする。 | B | |
| 結果と分析 | | |
| ① 年間で1度の研究授業を実施した。相互研修という観点では、他の教員の授業を観る機会が少ない。互いの授業や指導場面に積極的に参加し、情報共有できる場面の増加を望む。 | | |
| ②生徒情報の交換は全体を通して密に実施できた。 | | |
| ③外部講師を招いて、教員研修として学習支援についての講習を実施した。教員間で意見交換、情報共有ができた。 | | |
| 次年度への改善点 | | |
| 小学校との連携を広げて、児童の情報共有、小中学校の現状を報告し合える場面をつくっていきたい。 研修計画については、教科を超えた枠組みで、教員間の情報共有や、スキルアップ、最新の教育情報など、幅広い分野の講義、研修ができるよう計画をたてていきたい。 | | |

(16) 特別支援教育の重点

| | | |
|---|---|------|
| 目標：社会自立に向けた支援を個別に努める。 | | |
| | | |
| 取組内容（指標） | | 達成状況 |
| ① 生徒一人ひとりの実態把握に努め、教職員全体で理解・共有する。 | A | B |
| ② 個別の支援計画に基づいて、生徒一人ひとりの課題を共有する。 | B | |
| 結果と分析 | | |
| ① 特別支援研修などを通して、教職員全体で生徒一人ひとりの実態把握をすることができた。 また、新入生に関しては入学前の保護者懇談を実施し、より多くの情報を得る必要がある。 | | |
| ② 「個別の支援計画」は、定期的に見直しをして、目標設定をその都度変更する必要がある。また、「個別の支援計画」を作成する上で、保護者の考えに寄り添い、連携を取りながら進めていく。 | | |
| 次年度への改善点 | | |
| 引き続き、特別支援研修などで情報を共有していく。新入生の実態把握についても、小学校との連携を密にする。3月の特別支援研修では、新入生の情報共有を教職員全体で行い、特別支援在籍予定生徒の理解に努める。 | | |
| 教職員間の情報交換を密に行い、保護者・地域・関係機関との連携を図っていく。 | | |

(17) 1年 努力目標

目標：基本的生活習慣を身につけさせるとともに、自主性を高め協力する心を育成する。

| 取組内容（指標） | | 達成状況 |
|--|---|------|
| ① マナーやルールを守ろうとする生徒を育成する。 | A | B |
| ② 自ら学ぼうとする生徒を育成する。 | B | |
| ③ 他者を思いやる生徒を育てる。 | A | |
| 結果と分析 | | |
| <p>① 多くの生徒が学校のルールに則り、生活を送ることができている。</p> <p>② 落ち着いた環境で学習に取り組むことができている。課題を見つけて取り組む生徒が増加してきた。</p> <p>学年行事（スポーツ大会）を実施した。学年代表、体育委員が中心となり、リーダー中心に円滑に取り組むことができた。支えるメンバーも協力することができた。今後は、その場の状況に応じて考え、行動できる集団を目指していきたい。</p> <p>③ 生徒間トラブルが減少した。仲間を受け入れる受容性は高まっている。</p> | | |
| 次年度への改善点 | | |
| <p>生徒主体で取り組みができる集団を育成したい。そのために、それぞれの場面で「責任感」と「支え合う」ことの重要性を説いていく必要がある。事前指導を正しく行い、取り組んだ後の振り返りを、正しい方向へ導く指導が重要。生徒や集団が「達成感」を得る回数を増やし、自ら「挑戦」できる環境を整えることが次年度への課題である。</p> | | |

(18) 2年 努力目標

目標：自他を尊重し、何事にも意欲的に取り組む集団になる

| 取組内容（指標） | | 達成状況 | |
|---|--|------|---|
| ① 互いを思いやり、高めあう学年作り | | B | B |
| ② 将来の目標を定め、学力向上に励む学年作り | | B | |
| ③ 行事や部活動に主体的に取り組む学年作り | | A | |
| 結果と分析 | | | |
| ① 1年生の時よりも生徒間のトラブルが減ったり、乱暴な言葉使いが減ったが、スマホのトラブルがわかり、指導した。 | | | |
| ② 複数の企業の職業講話を通して、仕事の楽しさ、厳しさを学び、自らの将来について、今できることやしなければならないことについて深く考えることができた。 | | | |
| ③ 体育大会では各係の仕事に熱心に取り組んでいた。文化発表会では、夏休みに有志が脚本を作成した。百人一首大会では、各クラスとも工夫をして、熱心に覚え、本番でも、ルールを守って楽しむことができた。送る会に向けての合唱練習にむけて、学級代表や有志を中心に取り組み始めている。 | | | |
| 次年度への改善点 | | | |

- ① いじめアンケートや、個々の相談によって悩み事を共有することができているが、未然に気が付くことができるよう、普段から広く見守る必要がある。
- ② 進路学習をはじめていく。
- ③ 固定されたリーダーではなく、より多くの生徒が活躍する機会を増やす。

(19) 3年 努力目標

目標：自らの進路獲得に向けて、真剣に向き合うと共に、思いやりのあるあたたかい集団を育成する。

| 取組内容（指標） | | 進捗状況 | |
|--|---|------|--|
| ① 自ら考え、状況を正しく判断し、責任を持って行動できる生徒を育てる。 | A | B | |
| ② 何事にも自主的・積極的に、最後まで諦めずに、やり抜く生徒を育てる。 | A | | |
| ③ 互いの違いを認め合い、自他ともに高めていける生徒を育てる。 | B | | |
| 結果と分析 | | | |
| <p>① 生徒会活動や専門委員会活動に責任感を持って、積極的に取り組む姿勢がみられた。2年次のときより、最高学年としての自覚が出てきた。</p> <p>② 修学旅行、体育大会などの学校行事や部活動において、多くの生徒が自主的・積極的にやり抜くことができ、「やればできる。」という達成感をもつことができた。とともに、学年として一つになる機会になった。また、文化発表会での「学年ミュージカル」を3年間の集大成として、一人ひとりが自分の役割を明確にし、力を合わせ、自身の成長と学年ミュージカルの大成功に向けて、最後まで諦めずに一生懸命に取り組んだ。多くの生徒は『やればできる。』という達成感を持つことができた。</p> <p>③ 様々な学校行事をはじめ、学年・学級の活動を通して、概ね学年としての一体感は出来てきてきた。しかしながら、一部、人の心を傷つける発言や行動があった。教育相談の活用や、チャンスを見つけての相談や指導の機会を日々心がけて来たが、自分の事だけでなく、他の人の事も考えて行動できる学年集団づくりという観点では課題が残った。</p> | | | |
| 次年度への改善点 | | | |
| 卒業まで | | | |
| <p>① 様々な機会を通し、下級生の模範になる行動ができる生徒を育成していく。</p> <p>② 残された期間、主体的かつ真剣に自分の進路獲得に向き合える生徒を育成していく。</p> <p>③ 自分の事だけでなく、他の人の事も考えて行動できる学年集団へと成熟させていく。</p> | | | |

